

## 私の考える多様性

金山中学校 三年 加藤 櫻子

私は昨年度末、下呂市のケチカン派遣団に参加しアメリカに行かせていただきました。今まで日本で生活してきた私にとって、現地の学校では制服のないことや、ホームステイ先での生活の違いなど、新鮮な体験をすることができました。そんな日々の中で、私が驚いた出来事がありました。それは、プールでの活動後、更衣室で一斉に着替えた時のことです。その時、私は違和感を覚えました。それは、あれだけ露出度の高いビキニを当たり前のように着ているみんなが、着替える際に個室に入っていくのです。別にそこは女性更衣室なので、着替えてはいけなわけでも男性がいるわけでもないのにどうしてだろうと思いました。私の小学校ではプールの授業があり、男女に分かれてみんなで着替えていました。だから、私は個室に入らなくても何の抵抗もなく着替えることができました。そのことを帰国後母に伝えると、「アメリカは日本よりもLGBTQに対する理解が深まっていて、心は男性でも外見は女性だから女性更衣室に入っている人だっているのだから、お互いを尊重するために個室などプライベートになる空間を使用するのだ。」と教えてくれました。それを聞いて私は、ハッとしました。私はこれまで、LGBTQについてあまり深く考えたことがありませんでした。この経験は、多様性について考えるきっかけになりました。

そこで、私は、LGBTQというものについて、詳しく調べてみました。すると、日本でも、こういった悩みを抱える人のことを考えた取り組みがありました。そのひとつが、東京にあるオールジェンダートイレというものです。それは、男女問わずだれでも利用可能で、性別による利用制限がないトイレのことです。私は、日本でも様々な取り組みが行われていることを知り、理解が進んでいる部分もあるのだと感じました。しかし、調べていくうちに、賛同する意見ばかりではないことも知りました。男女共用のため性被害が増加するのではないかという意見もありました。これらの意見を通して、このトイレはトランスジェンダーの方には配慮してありますが、こういった意見を持つ人への配慮は足りないのではないかと思います。LGBTQの方が尊重されることは大切だと思いますが、それによって不平等になってしまうのは本末転倒です。むやみにジェンダレスにするのではなくお互いのことを考え、意見を集め慎重に進めるべきだと思います。そして私も多様性の意味をよく考えて行動したいと思いました。

このように、調べたことを通して性の多様性もあるように意見の多様性もあることを知りました。私は、多目的トイレは体の不自由な人やお年寄り、妊婦さんが使うものだと思っていました。それ以外の方が多目的トイレを使うことは、本当に使いたい人が使えなくなってしまうため、いけないことだと思っていました。皆さんはどのように感じたことはありませんか？私は、実際に使っている人を否定的に見ていました。しかし、今なら、その人は女性トイレも男性トイレも使いにくいと感じる方だったのかもしれないと考えることができるようになりました。

私の考える、多様性とはみんな違ってみんないいという意味です。この国には、聖徳太子が残したといわれる「和をもって尊しとなす」という言葉があります。これは、「話し合うことが大切だ」という意味です。自分の感情や気持ちを押し殺して相手に同調したり、相手の意見や気持ちを聞こうとしなかったりするのは和ではありません。真の多様性の社会とは、どちらかが譲歩するのではなく、どちらも心地よく過ごすことのできる社会だと思います。この社会を実現することは難しいことだと思います。しかし、あきらめることなく、話し合いを重ねていくことが、これからの社会にとって大切なことだと思います。私は今回の経験から学んだことを生かして、自分の考えだけでなくまわりの思いを理解する努力を怠らないように生きていきます。みなさんも、まわりの声を聴き、自分の考えを発信し、誰もが心地よく生活することができる社会を目指してみませんか？